

## 事業所名 グループホーム憩

## 運営推進会議開催報告書

開催日時 令和 8年 3月 26日 (木)		
参加者 (照会依頼含む)		議題
利用者	0名	1. 行事報告
利用者家族	0名	2. 行事予定
地域住民の代表者	2名	3. 利用者様状況
市職員	1名	4. 身体拘束適正化検討委員会より
地域包括支援センター	1名	5. 質疑応答
事業所	2名	6. 次回予定日
会 議 録		
<p>1. 行事報告</p> <p>2月5日 節分祭を行いました。昼食にお寿司をたくさん召し上がりました。午後から豆まき (手作りボール) を行いました。鬼に扮した職員にぶつけて楽しめました。</p> <p>2月5日 1名の誕生日会を行いました。色紙をプレゼントしました。ロールケーキを召し上がって皆様に楽しめました。</p> <p>3月3日 ひな祭りを行いました。昼食にちらし寿司、おやつにひなあられ・饅頭を召し上がりました。</p> <p>3月17日 2名の誕生日会を行いました。色紙をプレゼントしました。</p> <p style="padding-left: 40px;">プリンアラモードをおいしそうに召し上がり楽しめました。</p> <p>2. 行事予定</p> <p>3月：花見</p> <p>4月：外食</p> <p>5月：母の日・誕生日会</p>		

### 3. 利用者様状況

介護度	人数
要支援2	0名
要介護1	2名
要介護2	2名
要介護3	2名
要介護4	2名
要介護5	1名
平均介護度	2.7

男性2名 ・ 女性7名／平均年齢 84.5歳

### 4. 身体拘束適正化検討委員会より

#### 「スピーチロックの原因と対策」

今回の検討内容は「スピーチロックの原因と対策」についてです。グループホームは、利用者様がその人らしく暮らす場所であり、生活の場所です。だからこそ身体拘束だけでなく、言葉による拘束＝スピーチロックにも、職員は知識を深め、施設側は身体拘束を行わないように周知する必要があると思います。

#### 【1. スピーチロックとは】

スピーチロック（言語的拘束）とは、言葉によって利用者様の行動を制限し、心理的に抑え込んでしまうことを指します。例えば、「歩かないで!」「危ないから座って!」「ちょっと待って!」などがあります。

#### 【2. なぜスピーチロックが起きるのか】

- ① 安全確保への不安…転倒リスクが高い利用者様が立ち上がる、動かれると、職員は転倒してほしくないために、「危ないから座って!」などの声掛けをしてしまう。
- ② 人手不足や忙しさ…ワンオペの時間や、複数の利用者様の介助が重なってしまったときに、「歩かないで!」「ちょっと待って!」と動きを抑制する声掛けをしやすい。
- ③ 利用者様の行動の理由が見えにくい…認知症の方は、目的や気持ちを言葉にすることが難しくなる。そのため、行動だけを見ると「なぜそうしているのか」が分かりにくいことがある。
- ④ 職員間の認識の違い…「不穏」「拒否」などの言葉に定義はあるが、職

員それぞれの価値観や許容範囲によりズレが生じ、強い口調になることがある。

- ⑤ 環境の問題点…利用者様が動く動線上に障害物や物が置いてあるために利用者様がつまずく、引っかかって転倒することが予想されるために「歩かないで!」「危ないから座って!」などの声掛けをしてしまう。

### 【3. スピーチロックを防ぐための対策】

- ① 言い換えの工夫…利用者様の自由や尊厳を制限してしまう言葉を、尊重を保ちながら安全も確保できる表現に置き換える。語尾を柔らかくする。

#### 言い換え例文

歩かないで! ➡ どうされましたか? (目的を尋ねる)

危ないから座って! ➡ こちらに座ってもらえますか。

ちょっと待って! ➡ 今〇〇しているので〇分程お待ちいただけますか。

- ② 行動の理由を探る…認知症の方は、目的や気持ちを言葉にすることが難しくなり、トイレに行きたい。パットが濡れているなどの原因があり立ち上がって動き始めたとしても、職員に伝えることや表現できないことがあるので、個人の排尿周期や表情、仕草を含め職員は動き始めた背景には何があるかを考える必要がある。
- ③ 環境の整備…利用者様が動く動線上に障害物が少なく、物が置きっぱなしにしないなどの環境を整える。
- ④ 職員研修・情報共有…月に1回の施設会議や声掛けの仕方についてはその都度、何故言ってはダメなのかの説明、言い換えの例を教えることで周知していくことが必要である。

### 【4. まとめ】

スピーチロックは悪意から生まれるものではなく、利用者様を守りたい気持から、とっさに出てしまうことがあります。しかしながら、スピーチロックで動きを抑制すると、本人が抱えている不安・痛み・要求が表に出なくなります。結果として、問題の早期発見が遅れ、認知症の進行につながることもあります。次に、「話しても否定される」「聞いてもらえない」と感じると、職員への不信感が強まります。逆に、話を受け止めてもらえると安心し、ケアがスムーズになることもあります。また、スピーチロックは一時的に静かになるように見えても、後で不安や怒りが強く出ることがあります。結果として、対応が難しくなり、職員のストレス

や対応することが増えていきます。だからこそ、どう声をかければその人らしさを守れるかを、これからも職員で考え知識を周知し、スピーチロックを行わない介護をする必要があると思います。

## 5. 質疑応答

### 民生委員

- ・「不穏」の意味は何ですか？

→例えば帰宅願望を訴え帰ろうとして外に出ようとした利用者様に制止しようとするとう興奮される状態。

テーブルの上に他利用者のコップがある時に飲もうとされる時に「飲んじゃダメ」と制止した際、「これは私のだから！」と怒りだしてしまう状態。

それらを踏まえ行動が過剰になり、興奮や落ち着きのなさが特徴で穏やかではない状態のことをいいます。

→専門職は普段から専門用語を活用し事務連絡や記録を残していますが、一般の方にすると専門用語は理解するのに難しいことだと気付かされたため誰にでもわかる言葉を用いて発言しなければと思いました。

### 地域住民

- ・職員の機嫌によって利用者への対応が変わることがありますか？

→利用者様の前では機嫌が悪くても表に出さないように指導しております。機嫌が悪い時は利用者様がいない場所へ移動し、一呼吸したり話を他者に聞いてもらったりして精神を安定させてから介護をして頂くように促しております。

### 地域包括支援センター

- ・ボランティアの受け入れは行っておりますか？

→行っております。

- ・一人担当している方の社会参加のためボランティアでマッサージをしてほしいと思っています。受け入れ可能ですか？（木曜日14：30～）

→一度、話を持ち帰らせて頂き、後日返答させていただきます。

## 6. 次回予定日

令和8年5月28日（木） 14時～ 場所：グループホーム憩

